

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成25年4月24日（水）

3 調査対象

第3学年

4 本校の参加状況

① 国語A	204人	国語B	204人
② 数学A	204人	数学B	204人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

II 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・ A（主として知識）の平均正答率は、全国平均・栃木県平均・宇都宮市平均より高い。
- ・ B（主として活用）の平均正答率は、全国平均・栃木県平均・宇都宮市平均より高い。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	82.1	79.2	77.6
	書くこと	4	72.2	67.1	64.5
	読むこと	6	88.8	82.3	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	81.5	78.2	77.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	82.1	79.2	77.6
	書く能力	4	72.2	67.1	64.5
	読む能力	6	88.8	82.3	80.0
	言語についての知識・理解・技能	18	81.5	78.2	77.5
問題形式	選択式	21	82.7	79.2	77.3
	短答式	11	78.9	74.9	74.7
	記述式	0			

【国語B】

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	3	71.4	63.3	62.7
	読むこと	8	75.2	69.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	71.1	63.0	64.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	71.4	63.3	62.7
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	3	71.4	63.3	62.7
	読む能力	8	75.2	69.9	67.8
	言語についての知識・理解・技能	1	71.1	63.0	64.6
問題形式	選択式	5	75.8	70.4	68.2
	短答式	1	79.4	80.9	77.5
	記述式	3	71.4	63.3	62.7

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

【書くこと】・【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- A（主として知識） それぞれの領域の平均正答率は、宇都宮市の平均に比べ、3.3～6.5ポイント高い。
- B（主として活用） それぞれの領域の平均正答率は、宇都宮市の平均に比べ、8.1ポイント高い。

【国語への関心・意欲・態度】

- 本校の平均正答率は、宇都宮市の平均に比べ、8.1ポイント高い。

【読むこと】

- 宇都宮市の平均に比べ、Aにおいては6.5ポイント、Bにおいては5.3ポイント高い。
- 文章の展開に即して内容をとらえる短答式の問題において、B問題の1題で宇都宮市の平均を下回った。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

《傾向》

- 国語で身につけたい能力に関する質問において、肯定的な回答の割合が高い。
- 「国語の勉強が好きか」「読書は好きか」という質問に関しては、栃木県や全国の平均値をやや下回っている。

指導改善のポイント

【読むこと】

- ・ 文脈に即して筆者の主張を読み取ったり、キーワードを見つけたりする学習を充実させる。

【その他】

- ・ 学習の目当てを明確にした授業の展開を心がけ、「わかる授業」「気付きのある授業」を通して、国語科学習への意欲を高めさせる。
- ・ 朝の読書活動の時間を通して、本を読む楽しさをいっそう味わわせる。

2 数学

全体的な傾向

- ・ A（主として知識）の平均正答率は、全国平均・栃木県平均・宇都宮市平均より高い。
- ・ B（主として活用）の平均正答率は、全国平均・栃木県平均・宇都宮市平均より高い。

<分類・区分別集計結果>

【数学A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	11	79.1	73.5	72.7
	図形	12	72.7	66.4	64.6
	関数	9	67.9	60.0	58.7
	資料の活用	4	58.7	48.3	46.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	17	77.0	68.7	67.9
	数量や図形などについての 知識・理解	19	67.3	61.6	59.8
問題形式	選択式	18	69.7	63.6	61.8
	短答式	18	74.1	66.3	65.5
	記述式	0			

【数学B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	5	58.2	43.0	41.7
	図形	2	49.8	45.1	44.8
	関数	6	48.4	40.1	40.0
	資料の活用	3	52.8	43.8	42.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	42.6	35.0	34.8
	数学的な技能	2	73.0	55.7	53.1
	数量や図形などについての 知識・理解	2	79.7	72.8	70.7
問題形式	選択式	4	48.8	43.2	43.3
	短答式	5	68.7	57.8	55.8
	記述式	7	39.8	30.8	30.3

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

【数と式】・【図形】・【関数】・【資料の活用】

- A（主として知識） 宇都宮市の平均に比べ、それぞれの領域が 5.6～10.4 ポイント高い。
- B（主として活用） 宇都宮市の平均に比べ、それぞれの領域が 4.7～15.2 ポイント高い。

【その他】

- B（主として活用）において、「数学的な技能」の正答率が、宇都宮市の平均より 17.3 ポイント高い。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

《傾向》

- 数学で身につけたい能力に関する質問において、肯定的な回答の割合が高い。
- 「数学の勉強が好きか」「解き方が分からないとき諦めずに考えるか」「もっと簡単に解く方法はないか考えるか」という質問に関しては、栃木県の平均値をやや下回っている。

指導改善のポイント

【数と式】・【図形】・【関数】・【資料の活用】

- ・ 基礎的、基本的な知識や技能を、これからもいっそう確実に定着させるとともに、多様な考え方や解き方を育てるような授業の展開を工夫する。

【その他】

- ・ 数学的な考え方を、日常的な事象と関連づけ、問題解決のために活用する方法を考えさせたり、説明できるようにする。

《傾向》

〈学習に対する関心・意欲・態度〉〈学習状況〉〈学習時間等〉

- 「国語や数学の勉強は大切だ」「授業の内容がよくわかる」「将来に役立つ」と回答している生徒が 75～94%をしめ、「土日の学習時間」や「計画的な学習」についての回答も、栃木県の平均を高く上回っている。
- 「原稿用紙 2～3 枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思うか」という質問に対して、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と回答した生徒が 47%以上おり、栃木県の平均を 15 ポイント上回っている。
- 「国語や数学が好きか」「読書が好きか」という質問に対しては、栃木県の平均を下回っている。

〈学校生活等〉〈地域との関わり等〉〈社会に対する興味・関心〉

- 「学校に行くのは楽しい」という質問に肯定的な回答をした生徒は 85%、「学校で友達と会うのは楽しい」という質問には 98%いる。
- 「部活動への参加」や「地域の行事への参加」についての質問では、栃木県の平均を下回っている。

〈基本的な生活習慣〉〈家庭でのコミュニケーション等〉

- 「毎日朝食を食べる」と回答した生徒が 99%いる。
- 起床時間・就寝時間に関する質問については、どの項目も概ね栃木県の平均を上回り、基本的な生活習慣が身についていると考えられる。
- 「家の人と一緒に夕食を食べている」「家の人と学校の出来事について話をしている」という質問に対しては、栃木県の平均より 5 ポイントほど低い。また、「お手伝いをしているか」という質問に対しては 3 ポイントほど低い。

〈コミュニケーション能力〉

- 「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」「伝えたいことをうまく伝えることができる」と回答した割合は、栃木県の平均とほぼ同じだが、「自分の発言や行動に自信がある」「相手の話を最後まで聞いている」「一人一人の考えや性格の違いを大切にしている」という質問に対しては、栃木県の平均を下回っている。

〈自尊意識〉〈規範意識〉〈将来に関する知識〉

- 95%の生徒が、最後までやり遂げた達成感を味わったことがあると回答しており、栃木県の平均より高い。
- 97%の生徒が、「人の気持ちがわかる生徒になりたい」「いじめはいけないことだ」「人の役に立つ人間になりたい」と回答しており、栃木県の平均より高い。
- 「将来の夢や目標を実現するため努力している」「将来になりたい職業がある」「家の人と将来について話すことがある」という回答は、栃木県の平均を下回っている。特に、「“あのような人になりたい”と思う人がいるか」という質問に対しては、11 ポイントも下回っている。
- 「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しているか」「自分には良いところがあると思うか」という質問への回答は、栃木県の平均を下回っている。